

9

立川と語ろう 立川に生きよう
September 2005
écoutez bien Vol.24 No.250

えくわん



写真：五来孝平



地鎮祭

「屋根なし、水なし、トイレなし。」

整備途上のこもれびの里で活動する市民ボランティアたちは、長らく不便に耐えてきた。

それだけ今年6月の作業小屋完成はうれしい。「里の小屋」という名前もついた。

まだ何もない場所で地鎮祭が行われたのは去年9月。

建設関係者は工事の安全を祈り、里のボランティアたちは、屋根のある場所で休める日を願った。

工事関係者や公園職員、指導にあたるアドバイザー、里の顧問役というべき三田鶴吉さんも出席しての神事。テントの外には水田や陸稲の穂、サツマイモの蔓、芽吹いたばかりの秋ソバ……。棚にぶら下がるヘチマは小屋ができたら使うタワシになった。

突然の雨に逃げまどい、昼の弁当は夏も冬も地べたの上、伝承行事や伝統食の実習には公園砂川口の事務所の片隅を貸してもらい、水はアドバイザーが自宅から軽トラックで運ぶ、トイレは男性ならその辺のヤブで。

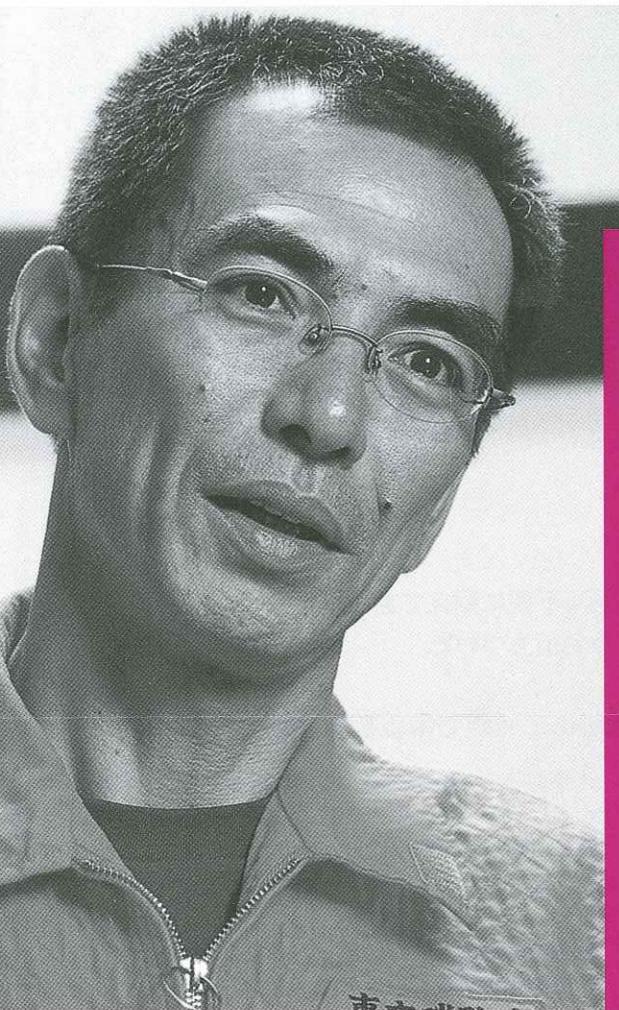
小屋が完成した現在からは信じられない苦労の連続。だが、この開拓農民のような体験を通して農業未経験者が多い里人たちは鍛えられ、たくましく育ってきた。



窪田雅子さん（立川市砂川町在住）

ボランティアに参加しようと言いましたのは昨年亡くなった夫。砂川の農家生まれなのに農業嫌いだった私はついてきていただけでしたが、今は主人の分まで畑仕事から充実感をいただいている。

大丈夫？と一声かける勇気を持って



於：泉町 東京消防庁第八方面本部 写真：五来孝平

芳賀 昨年の新潟中越地震で土砂に埋まった幼い男の子を救出されたテレビ中継は僕も見ていましたが、おそらく日本中の人に感銘を与えたと思います。恥ずかしい話ですが、その方たちがこの立川から出動されていたと知ってびっくりしたんです。東京から遠く新潟の災害現場まで飛んで行くのかって。

清塚 ハイパーレスキューと呼ばれる消防救助機動部隊は、阪神淡路大震災の教訓から発足しました。大地震など通常の消防力では対応困難な救助事象等に迅速に対応するために、大型重機、特殊救急車なども備えた自己完結型のスペシャリスト部隊です。われわれは東京にある3部隊のひとつで総勢63名、常時20人の部員が24時間態勢で勤務しています。

通常は立川周辺の火災や救助活動に従事し、大規模な災害時は全国規模で応援に駆けつけます。

芳賀 つまりは大規模災害の切り札。テレビで印象的だったのは、まだ強い余震が続いている崩れるかわからない状況下で救助活動を続けられていた。すごいなと思いました。

清塚 なぜ危ないところに入っていくのかと聞かれると困りますね。職業ですから（笑）。誰かが救助に行かなければならぬ。では専任でそれをやっているのはどこかといえば、やはり消防です。ノウハウ、経験もあります。私もそうですが、好きでこのオレンジの制服を着、この道に入ったのだからわれわれがやらなくて誰がやる、という自負もありますし

災害救助に活躍するハイパーレスキュー隊長 清塚 光夫さん

■ 芳賀敏博（はが・としひろ）／えくてびあん編集人

■ 清塚光夫（きよづか・みつお）／新潟県生まれ。昭和50（1975）年東京消防庁に入りレスキュー隊員に。八王子、青梅各消防署などを経て平成15（2003）年から第八方面本部消防救助機動部隊（ハイパーレスキュー）部隊長。昨年10月発生した新潟中越地震では崖崩れで土砂に埋まつた車から男の子を救出する指揮をとった。消防司令。

ね。ただ、それなりの安全確保対策はとっています。今回は隊長の私以下17名が現地に入りましたが、ほとんどが妻子持ちです。帰れば一家の大黒柱の隊員を現場に入れるんですから。

芳賀 今回も、大丈夫だという判断はあったわけですね。

清塚 最終的に決めたのは、つくばから現場に来ていた国土交通省土木研究所の2名の専門官の方が状況を確認して「一緒に行きましょう」と言ってくださった時です。われわれのように災害対応の訓練をしていない方たちです。胸に響きました。注意点の説明も非常に具体的で、この人たちの言うことなら信用できると。先遣隊にはいざという時は信濃川に飛び込みとライフジャケットをつけさせ、下流に各県の応援部隊を配置してもらいましたが、そうでなかつたら安全対策にずっと時間がかかっていたはずです。

芳賀 命にかかるようなことは信頼関係がないとできませんものね。そういうえば、こちらにうかがったときに＜愛・技・絆＞という言葉が掲げてありました。

清塚 それは第八方面本部にこの部隊が創設された時の先輩たちが作られた隊訓です。＜愛＞は救助を求める人たちに差しのべる愛の手、＜技＞は常に怠らず磨く救助技術、＜絆＞は仲間が支えてくれるという互いの信頼。直径12ミリの細いロープを体に巻き付けて「これ、持ってくれよ」と仲間にロープを託して降りて行くには、信頼関係を築き上げていないとできませんよ。消防の場合、24時間勤務でその間は飯を食うのも一緒、風呂も一緒、寝るのも一緒ですから築きやすいのかもしれません……。技術では基本の訓練です。1隊20人に20台の車両という部隊ですから、資機材の扱いに習熟するだけでも大変です。極限状況では頭で考えなくとも体が自然に動くよう

でないと使いこなせません。20人を3班に分けて担当分野の訓練をし、1ヵ月ローテーションで全員がひととおり全部のことができるようになっています。

芳賀 ひとりひとりがスペシャリストでありオールマイティーであるような部隊だから極限状況で救助ができる。僕らにはなかなか想像ができないことですが……。

清塚 気持ちの上でいちばんつらいのは、やはり人の生死にかかわる部分ですね。今回も、男の子のお姉ちゃんは体がそこに見えているのに出してあげることができなかった。悔しいですよ。交替部隊に引き継いで帰る途中のヘリで救助活動打ち切りの連絡を聞き、若い隊員は泣いていました。私もひとりの人間として悔しいし何日かかろうと出してあげたい。しかし同時に、隊長としてもう隊員を危険にさらさなくてもいいという安堵感もありました。ちょっとと言葉になりにくい複雑な気持ちですね。隊員にはいつも、われわれがつらいと思うよりずっとご本人やご家族はつらいんだと言っていますが……小さな子どもさんが犠牲になるのは……やしいですね。

芳賀 新潟中越地震の後、スマトラ沖地震と津波で大きな被害が出ましたし、日本でも地震が頻発しています。東京直撃の大地震がいつ来てもおかしくないとも言われます。そういうときはどうしたらいいんですか？

清塚 できることなら起きてほしくない。もし関東大震災級の大地震が起きたら、東京都民1200万人を消防救助機動部隊でまかなうなんてどうかい無理です。1万8000人の東京消防庁全体でもとても足りません。新潟中越地震でも激しい揺れの間はほとんどの人が何もできなかったそうですが、突然激しい揺れが来たときは頭を抱えて小さくなり、

とにかく何とか自分の身を守ってください。そして揺れが収またら落ち着いて行動し、できれば周りの弱い立場の方に手を差しのべていただきたい。初期段階では近隣の協力がいちばん重要な要だと思います。

芳賀 阪神淡路のときも地域コミュニティがしっかりしているかどうかで犠牲者の数が違ったようですからね。

清塚 新潟中越地震では地域の人たちがひとつのビニールハウスに避難して助け合ったところもありました。自分の生まれ故郷だから言うわけではありませんが、地域のコミュニティが出来上がっているからできる。東京でも多摩地域はまだ人と人のつながりがありますが、23区では隣がどんな人なのか知らないことが多い。そこが最大の課題です。倒れたり傷ついた人がいたら、何をしてあげられなくても、とりあえず「大丈夫ですか？」と声をかける勇気を持ってもらいたいんです。見て見ぬふりだけはしないでほしい。声をかけるだけなら誰でもできるし、それだけで不安な人の気持ちは全く違います。そしてできることなら救命法を覚えてもらいたい。自分や家族のためでもあります。それで助かる人がたくさんいるんです。隣の立川防災館では講習会を開いていますし、企業など人数がそろえば出張講習もします。ともかく、まずは声をかけることからです。

芳賀 せめて立川ではそうありたいですね。



高松町	書籍・雑誌 フレンド書房	高松町3-18-2 527-1555
	サロン・ケベカラ美容室	高松町3-21-12 527-4716
	HAIR MAKES たしろ	高松町3-26-16 525-2175
	ふとんの 青木 寝商	若葉町1-8-1 536-6833
	シルバーレストラン サラ	若葉町1-10-1 534-0602
	Beauty Salon リラ	若葉町1-11-1 536-3048
若葉町	浅見内科医院	若葉町1-11-20 537-0918
	みふじサイクル	若葉町1-12-4 536-7166
	生鮮館 和光 立川店	若葉町3-13-2 538-3121
	いなげや 立川若葉町店	若葉町3-43-2 537-4120
	鮨処 舎利とねた	西砂町1-36-11 531-4835
西砂町	パティスリープルミエール	西砂町2-32-2 531-5625
	有限会社 東京きのこ社	西砂町5-6-2 531-2392
	パン工房 ゼルコバ	一番町4-57-1 531-3100
一一番町	CHINESE DINER 陶桃	一番町6-17-9 531-5164
上砂町	フレッシュグリーン 八百賢	上砂町3-2-1 536-2331
栄町	fresh shop スーパーはしもと	栄町2-59-8 536-9711
	多摩中央信用金庫 栄町支店	栄町3-7-1 523-7201
	いなげや 立川栄町店	栄町4-8-12 522-4507
	ニュースサービス日経 立川中央	

えくてびあんの輪
立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあんは
リストのお店にいつもあります

今月は 高松町・若葉町・西砂町・一番町・上砂町・栄町・幸町・錦町のお店です。

栄町	チーズ王国 本社	栄町4-16-1 525-9800
	手打ちそば 佶更	栄町5-12-1 537-0919
	FUKUSHIMAYA 立川店	栄町5-36-1 534-1700
	相模屋酒店	栄町5-61-8 536-2476
	メンズカット ザ・ワ	栄町5-61-31 536-8738
	森田接骨院	栄町6-6-25 535-6240
	立川農産物直売所	幸町1-14-1 536-2439
	いなげや 立川幸店	幸町1-23-6 537-1820
	中華レストラン SANFUJI	幸町2-3-5 536-3813
	西武信用金庫 幸町支店	幸町2-11-34 537-3101
	超こってりらーめん パワー軒	幸町2-35-3-1F 535-1665
	お菓子処 花奴萬葉庵 すすかけ通り店	幸町3-17-3 536-8785
	江戸前・富山の魚と酒 緑寿司	幸町3-28-24 536-4800
	至誠キートスホーム	幸町4-14-1 538-2323
	とんかつ・割烹 かつ亭	幸町4-59-3 535-4611
	和洋菓子 たちばな	幸町5-2-16 537-0347
	BSタイヤショップ 佐藤商会	幸町5-10-2 537-0912
	古楽の小屋 ロバハウス	幸町6-22-32 536-7266
	めがね・とけい・補聴器 カワハラ	錦町1-1-25 525-4427
錦町	鳥料理 くし秀	錦町1-2-3 522-7692

めざせ、 強豪と呼ばれる日！

軟式に転向して2年目 羽衣ウィングス

今年もG1杯の夏が来た。第25回G1杯争奪・都下少年野球選手権大会。

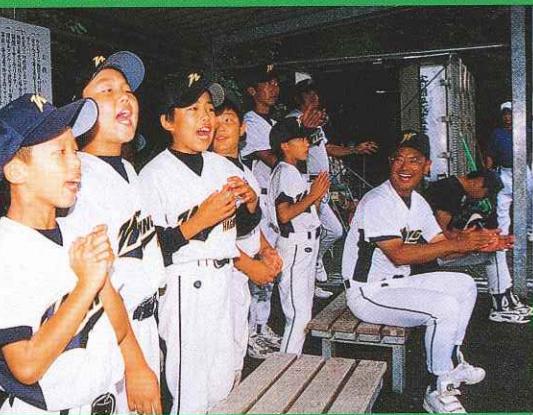
過去最高の73チームが参加、開会式には1000人を越える子どもたちが集まつた。

硬球から軟式に替えて新規参入2年目という羽衣ウィングスを追つた。どこまで勝ち進めるのか――。

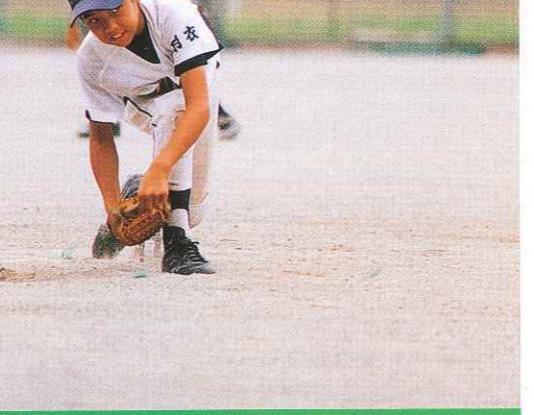
写真：五来孝平



開会式 始球式は青木久立川市長



得点が入るとベンチも明るい



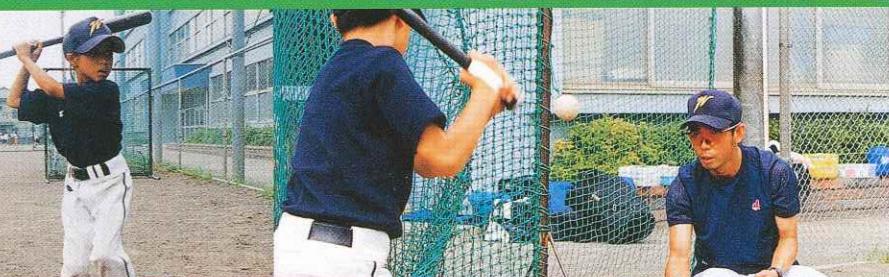
相手ピッチャーにタイミングを合わせてバットを振る



7月3日、開幕第一戦は瑞穂石畑グランド。対する相手は瑞穂ウルフライターズ。1回表を3人で終わらせたその裏、羽衣ウィングスは相手のミスから3点を先取。波に乗ったウィングス打線の勢いはその後も止まらない。ベンチの声援はさらに大きく、4回まで各回1点ずつをあげ5対0。完全試合になるかという好投をつづけたピッチャー、6回に三星打を浴びるも、好守に支えられダブルプレーで無得点に抑えた。終わってみれば7対0の6回コールド勝ち。

「今回はできすぎです」と監督は言ったが、だれもが嬉しい勝利。第2戦につなげたい。学校や地域活動を優先しながら、休みのほとんどを野球につぎ込む。それは選手たちだけではない。監督やコーチ、陰で支えてくれているお母さんたちも、みんなひとつになって頑張っている。だから、勝てばみんなが嬉しい。

7月17日、第2回戦は日産グランド。対するは国分寺ジュニアキングス。エラーが多すぎた。「勝てた試合だったのに……」と、誰もが思ったに違いない。1時間30分の試合時間、6対4まで追いつきながらの不完全燃焼。原因はなにか、今後の課題はなにか。試合後、監督やコーチから厳しくも温かい言葉がかけられる。「自分のプレー反省して」「もっと野球っていうものを知ろうよ」「くやしかったらくやしさをもっと表現して、それを今度の試合で思い出せよ」「バッティングやピッチングも大事だけど、もっと走り込んで下半身を鍛えろ」「日頃の練習に励んで、野球を楽しんで」と。親と子が、地域が一体となる少年野球。健全な心が育まれているからこそ、がんばれる。強豪と呼ばれる日は必ず来る。



Aチーム監督 泉孝光さん

羽衣ウィングスメンバー

花柳 佐栄秀さん(一番町)

3歳で故・花柳寿美佐栄師のもとで日本舞踊を始め翌年初舞台、日大芸術学部で日舞コースを修め卒業後稽古所を開く。まさに舞踊家としてまっすぐの道。人間国宝の花柳寿南海師に師事し数々の大舞台に出演。流派を超えた登竜門というべき日本舞踊協会「新春舞踊大会」大会賞を三度受賞。自身のリサイタルなど充実した活躍を続ける。立川を中心にお弟子さんも多く、その研修会「佐栄秀会」は昭和58年の第一回以来数年のペースでアミューチタチカワや国立劇場で開催。踊りとトークの会もと、踊り手としての「花」とともにこの伝統芸能の素晴らしさを伝える。

一番町のお稽古場で 写真：細江英公

立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ
多摩てばこネット

<http://www.tamatebako.net.ne.jp/>

多摩てばこネット編集工房
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamatebako.net.ne.jp

常樂我淨

真如苑提供番組くじょうらかじょう

スカイバーフェクTV 216ch・マイ・テレビ 84ch

土曜 午前9時~9時15分
午後7時15分~7時30分
再放送/火曜 午前9時~9時15分
午後7時45分~8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十九年
真如苑
柴崎町1-2-13 Tel 527-0111(代)

パレスホテル立川
〒190-0012 東京都立川市曙町2-40-15

お問い合わせ、ご予約は
TEL 042-527-1111
FAX 042-527-5169
<http://www.palace-t.co.jp>

この人この店 ⑥

ベトナム家庭料理

COM VIETNAM

オーナーシェフ DANG THI KIEU THUさん

あの時のあの味をもう一度！って思うことがありますよね。いろいろな調味料が売られるようになって、パスタ料理や中華ならなんとか家でもマネできそう。ところがどうしても再現できないのがベトナム料理。それもそのはず、「これは日本に無いから……」とシェフのDANG THI KIEU THUさんが持つて来てくれたスパイス、見たことも嗅いだこともありません。「これを入れないとフォーにはならない」とおっしゃいます。サラッとした鶏のスープがコリアンダーの香りとスパイスで深みをまして、やわらかいフォー（麺）と一緒にのどを通ります。ベトナム料理って辛くないんですね？「タイやカンボジア料理と勘違いしてませんか？」はずかしながら、そうだったかも……。「ベトナムのイメージを正しく伝えたいんです」本当の味を知りたい方、是非お試しください。COM VIETNAMは〈ベトナム家庭料理〉のこと、家庭料理だから毎日食べてもあきません。



〒190-0012

立川市曙町2-32-3
三和ビルB1F

TEL 042-526-5822

●営業時間

11:30~14:30

17:30~22:30

●定休日

日曜日の午、祝日



写真：五来孝平

えくてびあん流

五木寛之 文化講演会 「こころの風景」

数々の賞を受けた小説群、多くの文学賞選考委員をつとめる作家、五木寛之氏。龍谷大学で仏教史を学び仏教にも造詣の深い氏が、立川でどんなお話をしてくれるのか。たのしみです。

平成17年9月15日(木)
開場 14:00 開演 14:30
アミューたちかわ 大ホール (立川市民会館)
入場無料 (応募者多数の場合は抽選)

主催／株式会社 精神文化映像社
後援／立川市 カトリック女子パウロ会 真如苑
えくてびあん 多摩てばこネット

●ご希望の方は、往復ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、希望人数(本人を含め2名様まで)を明記の上、下記の宛先までお申し込みください。当選者の発表は入場整理券をもってかえさせていただきます。

【宛 先】〒190-0012 立川市曙町2-17-5
杉田ビル3F えくてびあん「講演会」係
【締 切】平成17年8月31日(当日消印有効)
【問い合わせ】042-523-9898
えくてびあん「講演会」係

安心の提供 グランドホテルにAED設置

突然起る心停止。心臓の異常は一刻を争う。どれだけ早く初期救命措置を施せるかが、生死の分かれ目となる。最も有効な方法は電気ショックを与えること。昨年7月から一般市民でも扱えるようになったAED(自動体外式除細動器)。音声の案内に従えば、救命措置が誰でもできる。救急車が来るまでの間に行える初期救命措置だ。

このAEDを東京立川こぶしロータリークラブが立川グランドホテルに寄贈した。ロータリー100周年記念事業の一環として地域に貢献したいと同ホテル1Fロビー内に設置された。ホテル側も「今まで消防や救急の自主訓練を重ねてきているが、これでなお一層お客様に安心の提供ができます」と喜んでいる。ところで、まちがって電気ショックが施されてしまったりはしないの？——「放電の必要がない場合には、器械が判断して放電いたしません。大丈夫でございます」。



五木寛之氏プロフィール◆1932年福岡生まれ。47年北朝鮮より引き上げ。早稲田大学文学部ロシア文学科中退。『さらばモスクワ戦友隊』で小説現代新人賞、『蒼ざめた馬を見よ』で第56回直木賞、『青春の門』で吉川英治文学賞を受賞。代表作は『朱鷺の墓』『戒厳令の夜』『蓮如』『大河の一滴』『他力』『日本人の心』。翻訳にチャーチル『犬を連れた貴婦人』、リチャード・バック『かもめのジョナサン』等がある。英語版『TARIKI』は大反響を呼び2001年度『BOOK OF THE YEAR』に選ばれ、2002年度第50回菊池寛賞を受賞。現在『百寺巡礼』(全10巻)シリーズの刊行が進行中。

タチカワ誰故草 ⑥

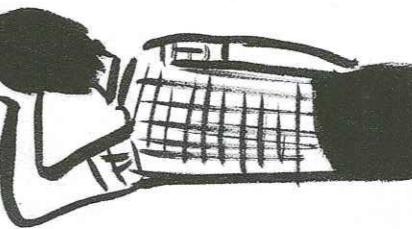
絶頂でやめたがる

森 忠明

ポプラ社からファンレターが転送された。葉書にボールペン字である。拙著『小さな蘭に——パパの大好きなひとたちのこと』への感想。差出人は和歌山県のMさんという、たぶん中学生の女性。「あたしは作者の娘さん、蘭ちゃんがとてもうらやましかったです。私の父も、一人で旅立つ父も、こんな風にあたしを思ってくれれば、と思います。あたしも、いつか大切な人と結婚して、その人の子供を産んだら、あたしの大切な人たちのことを知つてもらいたい。何故だか解らないけれど『小さな蘭』は宝物になりそうです。1年後にはどうなっているか解らないけれど。最初の1ページを読んだとき、あー失敗した、むずかしいなあと思い、蘭ちゃんへの本だと解ったとき、自分勝手な人だと思いました。だけど、パワーがあつて、何が好きです。幸運、お祈りします」。

そうか、オレって自分勝手な人だったのか。Mさんに無断で『えくてびあん』に書いていたやうなんて自分勝手だよな。

「私生活の泥は吐かない」を信条とした文芸評論の泰斗・河上徹太郎氏とは正反対に、私がこれまで描いてきたのは自分と身内とタチカワのことばかりで、自己満足作家と貶されても仕方がない。でも、一番好きな思想家のシオランが『神かわが身のほかに論じうる対象など存在するだろうか』と記していて、ちょっぴり救われる。



友人たち、特に実業にたずさわる有産階級？は、私のいない集まりには、必ず私のエゴイズムや非生産性や鼻の下の長さなどを肴にして盛り上がるらしい。いわく「肩書きは『呼吸者』なんて言ってる森の気が知れん」。又いわく「一日十時間以上寝てるなんて信じられない」。又又いわく「弟子は美人しかとらないらしいぜ」。いろいろ言ってくれるものである。まあ、どうでいいけど、申し開きしよう——私がこうなつたのは、祖母森よし及び実母森美枝の教訓のせいであり、長じてからは師匠連のハゲマシとソソノカシゅえなのだ。

立川二中に入った頃、おばあちゃんはのたもうた。おまえのような男なら、黙ってたつて女はほつとかない。養ってくれるよ。おふくろはかく語った。寝るほど楽はなかりけり、憂き世の馬鹿が起きて働く。

童話作家界のドンだった大石真先生は「奥さんには食べさせてもらえるなんて、文士の理想。森さんは前世で格別善い事をしたんだなあ」。偉大だった抒情詩人・野長瀬正夫先生も「死ぬまでエンヤコーラの老生どちがい、あなたの美的生活こそ無類の傑作でしょう」。

挿画：野崎義成

スタッフ

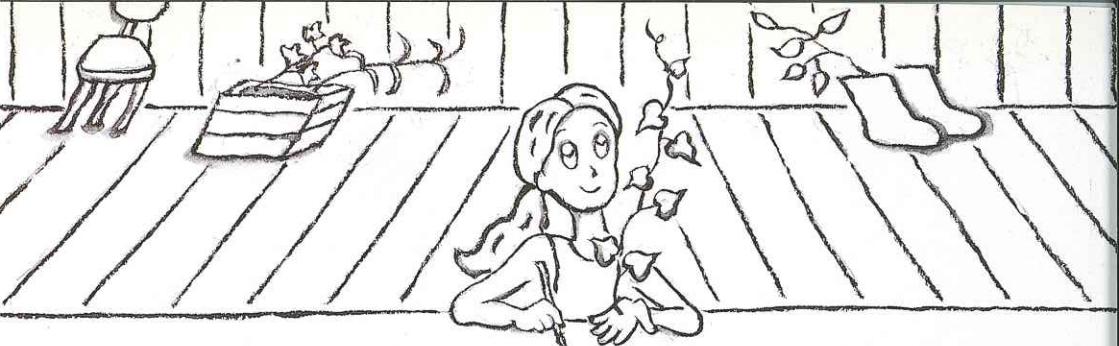
編集 大久保清志／清水恵美子／中薫子
デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES)
AMNET design factory
写真 五来孝平／宮保大輔

えくてびあん(C) 9月号

第24巻 通巻250号
平成17年9月1日発行
発行 えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人 芳賀敏博
発行人 加賀悦也
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。





Standing River essay

群馬直美の“葉っぱの精神”②

昭和記念公園の花火は楽しい

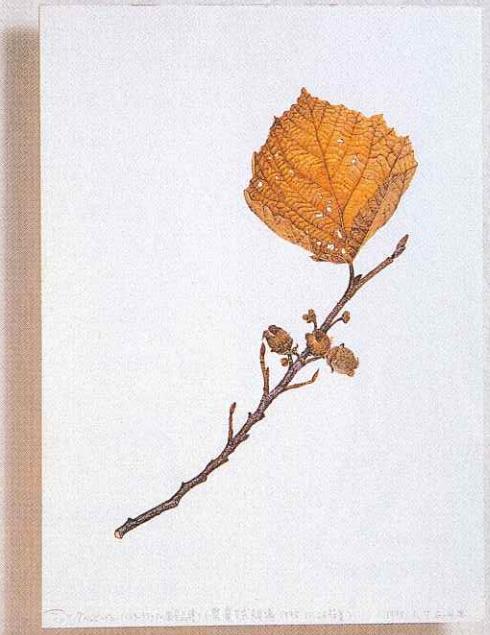
真 つ黒な夜空に、一尺五寸玉が長い尾を引いてどこまでも高く上がる。みんなの原っぱで、息を呑んで見上げる人々。ドドーン！ 色とりどりの希望の星が、キラキラと立川の街に降り注ぐ。

一世代の大勝負！ そんな夏の夜空の打ち上げ花火みたいな植物がいる。

種ははじけて飛ぶ——と図鑑で読んで、ピピッときた。動けない植物が、自力で種をはじき飛ばすとは！ 革命児みたいで凄くいい。

マンサクの小枝と画面を交互に見やりながら、面相筆で描き込んでゆく。マンサクも私も身じろぎもしない。動いているのは、筆の穂先と私の目玉だけ。息を詰めて描いていると、突然、カタカタカタ！ と小枝が震えた。なにが起きたのか瞬わからなかつた。もしかして！ 壁際に行つてみると、黒く艶やかな種がふた粒。これが一世一代の勝負を賭けて、マンサクがはじき飛ばした希望の星。

私はその小さな希望を拾い上げた。すべてこれから、はじまるんだ。



1999年1月7日 マンサク

紙／テンペラ